

1、行ってみたらシンガポールはこんな所でした（私が見たもの、聞いた事）

- ・清潔感ありとてもきれい。
- ・道なのか、何なのか・・・？すっきりしている、ごちゃごちゃしていない、整理（整備）されている。
- ・山がない。急坂もない。
- ・国道や高速道路（は無料）の、道幅、車線の数が広かったり多かったり、必ず中央分離帯があったりと走りやすい。
- ・住居スペースは大きなビル群が主で、デザインビルが多い。一軒家的な住居もあったが敷地はビッグサイズ。建物は2階建てと思われる。80%が公団（ではあるが、99年契約の買取方式）残りの20%は民間のマンション or 戸建。3ベットルーム+バス+キッチン+リビング=3000万位。
- ・国内にいる外国人は75%中国系、14%マレー系、11%インド系。
- ・ケンタ、マック、セブンイレブン、スタバ、シェル、エッソ、イケア、自販機ほか、日本にもあるものを発見。
- ・公園や建物周辺は緑が多い。シンガポールは最初田舎町だった。他国との比較で、どうしたらいいかと考えた。結果、人が資源に。人材を育成、政府が投資する、ということをしている。審査はあるが、政府に認められると5万ドル（約400万円）が支給される。
- ・最初国の中心部に市街地を作った。しかし1992年頃、通勤ラッシュで困難。郊外開発を始める。
- ・泊まったホテルはマンダリンオーチャード。オーチャードとは、果樹園という意味。果物。昔このあたりは果樹園で盛んだった。しかし今現在は高いブランド商品や、食べ物（シンガポール代表の食べ物、チキンライス、チリクラブ、ラクサ）など、ここ、オーチャードロードでお金を出せば何でも手に入る。
- ・シンガポールの教育（保育）は主に、2ヶ月~18ヶ月、18ヶ月~3歳、4歳、5~6歳、小学校6年間、セカンドスクール4~5年間・・・となっている。大学は5つある。専門性がはっきりとしている。私立大学もある。シンガポールの親は教育に熱心。
- ・大学卒初任給は、25~37 or 38万位。
- ・シンガポールの小学校は4月スタート。
- ・MOE（教育省）が作った特別なカリキュラムがある。教育省が園を作る。入りたい人は条件があり、1ヶ月あたり（1日4時間）、国籍を持っている人は150ドル。永住権を持っている人は300ドル。やはり国が作ったものは保育料が安い。外国人は申し込めない仕組み。
- ・国には『ベイビーボーナスアカウント』という仕組みがある。子どもが生まれるとお金が下りる。6歳まで、親の貯金分だけ政府が同じ額を入れる。貯金できる。子ども4人までOK。

- ・国の考えは、国民には最後まで働いてもらってお金を回すこと、としている。
- ・日本で言う、職業訓練校みたいな機関『e 2i』という場所がある。古い考えや技術的なところでリストラにあった人が訓練を受けたり、また、面接の仕方から座るところなど細かなところまで教えてくれる。訓練後は斡旋。チャイルドケアも育成して、こう政府がそうやっている。限定25歳以上には、500ドルを政府が支給、自分のステップアップのために使っている。
- ・高卒資格しかない人は、アシスタントとして経験をつんでいく。
- ・国はお母さん達には働いてほしいと考えている。個人に助成金がついている。
- ・電車が走っている。駅は近代的。広い。切符ではなく、日本で言うパスモみたいなものを利用。6回までは利用可能で、6回利用するといくらか割り引かれてお得。
- ・駅のエスカレーターの速度が速い。日本の倍はあるように思う。これには驚いた。
- ・シンガポールではバスも電車も共に運賃は距離で決まっている。なので、バスも電車も一緒。タクシーはネット予約している人がほとんど。
- ・英語が共通語。教育の中では、小さい頃（保育園、幼稚園）から英語のほかに、中国語を教えている。クラスに必ず英語を話す先生、中国語を話す先生を入れている。
- ・マーライオンはシンボル。土産屋には色々なマーライオン製品が置かれていた。
- ・街中のところどころに屋台村(フードコーナー)小、中、大がある。値段はかなり安い。

2、シンガポールで見学した園の紹介

① ascension kindergarten (アセンション幼稚園) 10月12日(水) 8:30~10:30

<http://kindergarten.ascension.org.sg/>

- ・クリスチアの幼稚園、分かれてはいるが、同じ敷地内に学校と教会があり。ここに入る保護者の方には、クリスチアである事を理解してもらってからから入園してもらっている。
- ・ところどころの壁には、プログラムを子ども達にも、保護者にも知ってもらうために貼ってある。「you can do it」「organize」きちんとかたづけよう等。何故ならば物の価値観は子どもの教育にとっては大切であるから。書いてある事は言葉に出して実践する事が大切。言葉に出す事は、キリストで、大事な事。
- ・学ぶ事は楽しい、遊びを通して学ぶ。
- ・それぞれの教室にスローガンが張り出してある。プラス、聖書の言葉を使っている。
- ・3才頃の年齢は、匂いをかぐ事、触る事が大好き。トレーの上にそれらが経験できるものに乗せている。自然物をペットボトルに入れる(遊びの環境)。
- ・3歳児。15人いるクラスではあるが、一人の先生が一人で見られる人数はこのくらいだったら・・・と考え、2つのグループに分かれやっている。半分室内で製作、半分自由遊びなど。少人数がよい。
- ・小さいグループでは、それぞれ自分の好きな玩具を持ち、座って遊ぶ。
- ・open concept。4歳児~広い空間の室内を4つの4つのクラスが共有している。その中で、玩具を分かち合う事や待つことを経験する。時間を決めてクラス単位で動く。一箇所にだいたい30分。他のクラスと連携して動いている。色々な場所に行くので、色々な遊びが経験できる。
- ・4~6歳は図書館があり利用する事ができる。
- ・中国語、英語が環境の中にある。
- ・玩具棚の利用。ひとつの物の数は多くなく、種類が多い。赤、青、黄、緑、などと色で区別。一目で片付けられる環境にある。
- ・子どもの作品が楽しく飾られている。
- ・大きなホールでは年長児22名が、発表会に向けて歌+ダンスの練習。曲「私の中の小さな光」。大ホール以外にも、小さいサイズのホールがある。此処は、音楽を楽しんだりダンスをすところ。いきなり大きなホールでやるよりは、声も届くし子ども達ともより相談しやすい。
- ・とにかく作品が多い。階段、廊下のいたるところに子ども達の作品を展示。個人の作品、グループでの作品がある。
- ・シンガポールには四季がない。しかし、世界に出て行くためには教える必要もある。
- ・コンピューターについては、シンガポールでは小学校2年生でコンピュータープログラムを作成する事をしているため、5歳~コンピュータースクールを週1回やっている

る。

- ・建物外壁には、色の3原色を使う。此処の園が学ぶところとアートと一緒にやっていると
くところとして、壁画、言葉と一緒にしている。
- ・色の日がある。黄色の日とする。子ども達は家から黄色いものを身につけたり、持っ
てきたりする。
- ・怒ったときにどうしたらおちついてくるか……。書かせてみる。書いてある事で他
の子にも分かり、自身もコントロールできる。
- ・保育量はキリストのこの園は安いほう。300~1000ドル。

② caterpillar cove (キャタピラー・コーブ幼児教育研究センター)

10月13日(木) 9:45~11:45

<http://www.thecaterpillarscove.com.sg/>

- ・キャタピラー教育専門のビルの中にある園。
- ・幼児開発機関(ECD A/エクダ)の管轄。幼稚園は3歳~6歳で、3~4時間ほどの
時間。2ヶ月~6歳までいる。以前は別の省庁がやっていた。とても大きな組織で5
つに分かれている。『my first school』は100以上ある。下、中流がターゲット。『littole
school house』は10~15あり、オフィスビル内にある。『after school』は、小学生対
称にしている。日本でいう学童保育。『先生達を訓練する school』『キャタピラー・コ
ーブ』とある。
- ・キャタピラー・コーブは2箇所ある。研究するところ。入園希望者はくちこみで来る
人が多い。
- ・幼児の環境整備に投資。6000万ドルを使い施設ができた。シンガポールはどこに行
っても都会である。アウトドアスペースは少ない。大人の環境を子どもにも共有でき
るような環境を整えている。建築士さんと想いを共有。建築のデザイン賞を受賞した。
空間があり。シンプル。シンプルで何もないデザインだからこそ想像力を働かされる。
「これは××です」と教える事はなく、「××かも知れないし、○○かも知れないし、
もしかしたら△△かも知れない……」と子ども達が想像を働かせ楽しんでいる。建
物の中に中庭を造る。そこには大きな砂場がある。
- ・カリキュラム作成については2つに分かれている。一つは0~3歳。これは、子ども
と大人が触れ合う事を基本、メインにやっている。安心感や安全だという事が大切。
一緒に遊んだり、探索活動、道具や遊具が必要な年齢。もうひとつは4~6歳。この
年齢は更に2つのカリキュラムに分かれている。①基本的な数や文字を教える。小学
校1年生で必要とされる事を此処では教えていくことの計画。②劇、工作などの遊び
かた、なんでこうなるんだろう……と調べたりなど、こどもの遊びについての計画。
そして言葉と数で学んだ事を遊びでも応用していく。
- ・英語と中国語の言葉を学ばせる。シンガポールでは小さい頃から2ヶ国語が話せる事
は普通の事。クラスには英語が話せる先生と、中国語が話せる先生が必ずいる。

- ・何故砂場なのか？プールや滑り台は身近にある。砂場はなかなかない。裸足になって子ども達がのびのび遊んでいる。
- ・しかし中庭も限られた空間。グループわけをして遊びが出来るように工夫している。外部へ行く時もあり。地域社会を知る事も大切。
- ・避難訓練は6ヶ月ごとに行っている。

③ cherieheart (チェリーハート・デイスカバリーランド) 10月13日(木) 16:00

<http://www.cheriehearts.com.sg/>

- ・6年目の私立園。3ヶ月～6歳が生活。
長時間保育の子もいる。家庭と同じようにしたい。衛生面や環境を大切にしている。
- ・父兄はパートナーとして考えている。日々の読み聞かせ、年に一度のファミリーデー、遠足、スポーツなどのイベントに参加。
- ・corevalues いくつかに分かれる。
人々に仕える。分け合う。与え合う。自分たちばかりではなく。自分達がいかに恵まれているのか。*環境、敬意を持って人に扱う。*すべてのお子さんは必ず潜在能力を持っている。*子ども達が社会に出る時に必要な事。
- ・zeal learning
病院の研修遺産を呼んでデモンストレーションをとった。病院には行かれないので本物に近いように環境作り。
- ・literacy
社会的責任感。
- ・園でやった事を家庭に持ち帰り家族でやってきたものを園で飾る。分かち合える。
- ・保護者のスペースもあり。玄関。お便りはネットで開いてみる。
- ・アレルギー対応はしている。全職員が把握する。
- ・室内環境は掲示物や子どもの作品が多い。
- ・お迎え時、園内放送あり。名前を呼ばれる。

④ odyssey global 幼稚園 (オデッセイ・グローバル幼稚園)

10月14日(金) 10:00~11:45

<http://theodyssey.sg/>

- ・お金持ちの地域にある園。
- ・国際的に通用する子どもを育てる。卒園した子はどんな文化にも適応できるようになっている。
- ・此処は4つある内の二番目に出来た園。マレーシアにも2園ある。イタリアにあるレッジョ・エミリアの教育(1、自主性と協調性をはぐくむプロジェクト活動。2、教室内にアトリエやひろ場・・・想像性をはぐくむ環境作り。3、記録を活かすドキュメンテーション。)イタリアにあるプログラムを使っている。シンガポールで調整し使

- い、マレーシアにも下ろしている。
- ・中心となる価値観は5つ。①チルドレンファースト＝子ども中心に考える。②continuous innovation＝継続的な。確信。ベースは一緒だが、クラスで多少変わってくる。③collaborative partnership＝外部の人とコラボ。警察官に着てもらう。チャリティー団体とのコラボ。④Professional conduct＝新しい先生に、お金を賭けトレーニングしている。⑤embracing＝いろんな国の人がいる。障害を持っている人もいる。それらの多様性を受け入れていく。
 - ・カリキュラム内容・・・。英語。数学。卵など、料理をしたもの生のものとの違いは何？。中国人先生が各クラスにいる。音楽の先生に週一回教えてもらう。美術の先生に教えてもらう。体操（ダンス）は自由に動くもの、先生が教えるものがある。クッキングや、自然の中に連れ出す経験もさせる。
 - ・施設・・・。
 外の空間遊び場。
 食べる場所が2箇所。
 子ども達が料理する場所は、大人のキッチンの隣に。見て学び、匂いもかげる。
 子どもの図書館。ほんの貸し出しあり。
 子どもの博物館。子ども達の手づくりしたものを飾る空間がある。
 - ・18ヶ月間は1対4。3歳までは1対6。4歳は1対8。5～6歳は1対10でやっている。子どもの人数230名スタッフの他に、調理師、庭師がいる。
 - ・保育料は半日（6時間）1800ドル。1日2000ドル。
 - ・障害児も受け入れている。同じカリキュラムで行っている。深刻な場合はセラピストを雇い一緒に保育することも。
 - ・連絡帳はない。eメールで連絡。2週間ごとに写真をアップ。保護者はそれを見ている。
 - ・登園チェックは機械を使う。顔認識パットで出席が分かる。
 - ・自由に遊ぶ空間がある。17時～膳クラスが集まり、お迎えを待つスペースでもある。ままごとコーナー。
 - ・展示品あり。リサイクル作品ペットボトルの家。ほか、綺麗に作品を飾る棚がある。チャリティーで子ども達の作品を売る。売上金は寄付をする。子ども達に学んでもらう事を目的としている。
 - ・子ども達を床に座らせる事はない。何故ならば、目線を合せられるようにしたいから。
 - ・コーナー遊びをしている。
 - ・先生と一緒にだが、いつでも調べたい時にgoogleがいつでも使える。調べられる環境にある。
 - ・コンサートプロジェクトを掲示。最初はコンサートについて知っている事を書き出す。次に、それをするために必要なものを書き出す。次に・・・というように、進行状況が一目で分かるように、貼り出していく。やったこと、やってみてどうだったのかな

ど、反省まで。

- ・『3匹のくま』絵本を題材に、文字や数、気持ちなど、を掲示。子ども達もそれを見ている。
- ・18ヶ月～料理（メロンジュース、ゼリー等）をしている。5才がつくった料理を売る事もしている。保護者が買う。折り紙カフェを計画中。役割もあり、いい経験となる。
- ・庭を見学。植物園として、バナナの木、ドリアンの木、畑があり。三輪車をする場所があり。まるでミニ教習所。大型の固定遊具あり。公園みたい。
- ・リサイクルを中心にやっている。要らなくなった服を集めるなど。
- ・子どもの作品はプロの場所で展示する。博物館や、美術館など。売上金は、ユニセフに寄付する。

⑤EIS インターナショナル幼稚園 10月14日（金）13時～14時

<http://www.eisintl.com/>

- ・日本人の子どもを対象とした園。
- ・母国を大事にしながらも英語を取り入れる。
- ・先生は英語を利用。英語が2で、日本語が1の割合でやっている。かくくらすには、英語の話せる先生が必ずいる。
- ・日本では、今困っている子には、よしよしよしと片手で対応しながら目は全体を見ているのが現状。（一人担任だから。大勢の子を一人で見ないといけない。）ここでは複数担任なので、今困っている子に、愛情を沢山かけてあげられる事ができる。アジアの国の先生達は優しい。いっぱい愛情をかけてあげている。
- ・幼児期の今、何をすのがよいか・・・。自分で考えて行動できる力を身につけていく。自分でやりたい事を大切にしていくこと。想像力を働かせる。相手がどんな気持ちでいるのか考えてみよう。など。
- ・英語の先生と話してみたいな・・・。コミュニケーションがとりたいな・・・。という気持ちの芽生え。きちんとした英語を使う事を目的としていない。
- ・日本人としては、日本語を使う。日本人の役割は？。お箸を使う。上履きを履くなど、日本に帰った時に困らないようにしている。
- ・2～3歳は連絡帳がある。お昼寝もしている。
- ・インターナショナル系の保育園はシンガポールにいっぱいある。
- ・施設はお年寄りの施設だったところを再利用。広い庭は、こだわりのひとつだったらしい。他の4園にはないものだった。

以上

3、シンガポール 5 日間体験記（感想）

まずはじめに、今回の海外研修で多くの仲間達に助けていただいた事を感謝したいと思います。皆様本当に有り難うございました。無事に帰ることが出来ました。

遡る事数ヶ月前。私にシンガポール行きの話しがきたと同時に日程を確認。すると、運動会前だ・・・年長だ・・・一人担任だ・・・大事な時間だ・・・どうしましょう、と心配が・・・自分の置かれている状況をやっぱり考え別の人は？とも思ったりしました。けれど、直ぐに「分かりました」と返事。それは、「研修に行っている間は残っている職員皆で年長を支えているから大丈夫」という園長先生の言葉があったからです。安心して引き受けました。

ところが、一晚経ってからさあ大変！私にとっては生まれてはじめての海外旅行。しかも、飛行機で7時間。さどうする。いまさらながら誰かに代わってもらおうか・・・。不安要素たっぷりモードでとっても心配でドキドキでした。家族には「だいじょうぶなの？」「やめておいたら？」といわれ、マスコミではシンガポール航空機が事故・・・、蚊に刺されると・・・とあり、我が家にとっては大きな話題になりました。ますます心配が増していった私。しかも体調を崩し咳が止まらず医者通い・・・。

しかし、そんな私を見てまわりの先生達には「だいじょうぶだよ、シンガポールって治安はいいところだし、綺麗だし、だいじょうぶだから」と、何度も励まされたり、「大丈夫、飛行機の7時間はあっという間だから。映画でも観ていればあっという間に着くよ」と教えてもらったりと。そうか、なるほどと・・・と思い、少しずつ安心した私でした。そうしてメンバーも確認。あっ。知っている顔がある！！ほっとできた瞬間でした。（それでも研修日が始まる前日には万が一の話、生命保険の話、すべての確認を夫にしたのでした。鈴木家の一大事でした。）

10月11日（火）

羽田空港待ち合わせ時間よりもかなり早くについたので、コーヒーを飲み一息。とうとう始まるんだな。というのが感想でした。待ち合わせの場所は分かりやすく、とってもよかったです。尚徳福祉会という旗があったらもっと分かりやすいね、そんなことを話をしながら時間差で集まる仲間と、互いに軽めの自己紹介、今回の研修をまとめてくださる柳田さんとも「はじめまして、お世話になります」と挨拶をかわしました。そして人数確認。すぐさま出国手続を行った。ここまできたら、もう楽しまないと・・・と、私の気持ちはそんなふうに変っていました。

飛行機の中では教えてもらったように映画を鑑賞。なんと！続けて3本も 観る事が出来ました。

ようやく地上を確認。飛行機を下りて最初に感じたことは、「あっ沖縄の風に似ている」暑い、でも木陰は涼しい。と。ただ、草や木はみたこともないものが多かったです、だか

らこそ逆にわくわく感が増してき多様にも思います。ホテルに行くバスの中、ここがシンガポールか・・・と、一人景色を楽しみ、あっ。日本とおんなじ！と、おんなじ探しをしている自分がいました。

夕飯はチキンライス。私が知っているケチャップ味のチキンライスとは違い、蒸し鳥風の定食でした。蒸し鶏そのものにも酸味かかったタレがかかっているのが美味しかったです。しかし現地の人たちは、小鉢にあった赤色の唐辛子系のタレにつけて食べるようでした。味見をしたらかなり辛かったです。

さて、食後はセブンイレブンへ。当たり前ですが、ドルで表示されているから分かりにくく、1ドルが75～78円位だから・・・と、計算。ますます分かりにくく、買い物せずでした。

10月12日(水)

今日は午前中に『アセンション幼稚園』を見学。先生達は何名かおそろいのTシャツを着用。園内に入る前にはピストル型の体温計をおでこに当て、全員がサインと体温チェックを行う。慣れない事に心配な私は、ビリッとするのかな？と一瞬怖かった。全くもって心配はなかった。子供達の作品はとても大事に飾られていて、大事にされているんだなと、つい親心で嬉しく感じたりもした。2時間ほど過ごし、今度はシンガポール動物園へ。ランチ前、まずは園内のフードコートへ行き、「チキンボールヌードル、ワン」と注文。此処ではじめてシンガポールドルを使用、緊張の瞬間でした。サッパリしていて美味しかったです。園内はとても整備されている動物園で、とっても綺麗。シンガポールには特定の動物はいないらしい。しかし園内を歩き回る途中で日本では見たことのない動物を発見！これはなんだ？思わず写真を撮る。豚なのか？いのししなのか？『Babirusa』。たくさん歩き動物園を満喫。アジア象のSHOWなどもやっていて、象の頭のよさには驚かされました。

動物園からは公共バスを利用。なんと、私がお金でもたつく姿を察してか、足りていないのに「OK」といってくれました。きっと面倒くさかったのでしょうか、すみません……。そしてありがとうございました。

バスの次は電車に乗り換えです、此処が駅か……。とても空間が広くて、人がいっぱい。ただ、夕方のいい時間帯なのにスーツを着ている人がいない！皆さん急いでいるようだけれどもお仕事は……。学生なのか？社会人なのか？暑い国なので、きっとスーツなんかは着ないのでしょうか？素朴な疑問でした。そして駅ではじめてシンガポールエスカレーターを体験。率直な意見は「速い！」ぜひとも体験してほしいものです。

夕食メニューはチリクラブ(カニ料理)。ピリ辛ソースと揚げパンのバランスがとっても良しで、幸せな気分でした。チリクラブには、揚げパンと覚えておくといいですね。

10月13日(木)

ホテルで朝食を済ませ今日も研修スタート。午前中に『キャタピラー・コープ幼児教育研究センター』を見学。ここは、建築設計で賞をとっただけある素敵な空間でした。納得。

その後のランチは一旦ホテル近くに帰り、飲茶を美味しく食べました。お腹がいっぱいになり大満足、飲茶は色々食べられるからいいですね。この後は少し買い物ができる時間がありました。私はスーパー内へ。日本とは違うかな？と売り場を見て回りましたが、大きな違いはなく、日本のものも多くあり、見た事のあるものが沢山ありました。買い物をしてホテルに一旦帰り、伸びをして数分後・・・。

午後の研修がスタートしました。『チェリーハート・デイスカバリーランド（幼稚園）』を見学。今まで3つの園を回ったけれど、共通して言えることは、お勉強をしているという事。まさしくグローバル人材育成です。

その後は、国のシンボルでもあるマーライオン見学へ。どこだどこだ？水が出ているのか出ていないのか？そんなことを考え夕方夜景を見ながら公園内をお散歩。「あ！いたいたいた！」と見つけたときには叫んで走ってしまいました。ライトアップされたマーライオンと、ビルの夜景はデートスポットにはとってもいい感じでした。日常に追われている私も久しぶりの夜景に、ずっと見ていたい・・・。そんな感じでした。

今日の夕飯は大きな屋台村。好きなものを頼むのですが、色々ありすぎてかなり迷いました。他には柳田さんが薦めて注文してくれたシンガポールの焼き鳥。ピーナッツ風タレをつけて食べるんです。ビルの谷間の道路が歩行者天国となり、簡易テーブル、いすが密集してならべてあり、夜風に吹かれ月を眺めと賑わう此処の屋台村は、とっても暑かった・・・。でも、わいわいがやがやお祭り気分でした。

10月14日（金）

今日も研修がスタート。午前中は『オデッセイ・グローバル幼稚園』此処は、お金持ちが行くようなところで音楽室、美術室、ミニキッチンがあり先生もプロ、本物教育でした。わが子もこんなところに行っていたら・・・と、そんなことを思ってしまいました。もう小学生ですが。

ランチはそこから歩いて行かれる場所、フードコート。4日目にもなるとシンガポールにも馴染んできた感がわいていました。一人でぶらぶらと歩くのもいいかと・・・。

午後は『E | Si インターナショナル幼稚園』へ。日本人の経営する保育園。此処の場所は、此処の園だけは、シンガポールにいながら日本でした。ピコロの壁面、見慣れたエプロンを着用。日本の上履き使用・・・ザ！日本！。という園でした。

そして今日のお楽しみは、ケーブルカーでセントーサ島へ渡ること。ところが、このケーブルカーが凄かった！！！！8人乗りで、わりとスピードも速く、それだけではなく、かなりの高さがあり、海の上を渡ること。甘く見ていた私でしたが、これは本当に怖かった。真下は海という場所もあり、本当に息を呑みました。そんな乗り物に乗ってたどり着いた先はインビア・ルックアウトというテーマパーク。地に足が着き、ほっと一安心。で、乗り物とかありましたが私は景色を眺めたり、人間ウオッチングしたり、しながらお散歩で十分に楽しんだのでした。そして一人反省会。シンガポールは、どこにいても同じイメージの国だなと。変化がない？緑は多くて綺麗だけれど、何か足りない？なんだろう？

自然はあるものの作られた自然が多い？自然なんだけど不自然？整備されすぎている？と。そして日本を思い出し、日本に帰りたくなりました。（といっても、夜になると毎晩日本に帰りたくて、いていた私です）

夕飯はなんと鍋料理。暑い国なのに鍋？でしたが、ラクサというスープがシンガポール味。美味しくてはまり、「あとをひくね」と言っただけで食べ、挙句の果てにめでうどんを注文。本当に美味しかったです。最後の晚餐にぴったりでした。

10月15日（金）

今日は最終日。早起きして朝食までの間、帰りの準備のほか、ベットの上でごろごろとTV。ところが……。事件が発生！急に室内電気がバチッバチッバリッバリッと音と同時に火花が出そうなくらいに消えそうになったりついたり……。最後はバシッと音を立てて真っ暗に。緊急事態発生！外はまだ暗く、何にも見えない中、携帯電話を探し、懐中電灯機能を利用。「フロントに電話する！」と適当にボタンをON。繋がったのはおそらくフロントだと思います。どうしましたか？と、多分聞かれたのですがサッパリ分からず……。一方的に話したことは、「ヘルプ、ヘルプミー」でした。そのあとは、「マイルーム、ライト、ダウン！ライトがダウン！」と叫んだと思います。そうしたら、「OK。直ぐに行きます」と英語の返事がありほっと安心。でもどうする？来たらどうやって説明する？そんなことを考えて暗闇の中待つこと数分。「来ないね」「来ないよね……」。更に数分。「あつ。ついた」「トイレがついた」「きっとフロントでなにか操作したんだよ」来ないホテルマンに？？？と思いながらも自分達で室内スイッチをON。すべての電気がつき、何事もなかったように生活。すると、ピンポンとドアチャイムの音。今頃誰だろうとでてみたら、なんと、作業服（つなぎ）を着て長いはしごと道具箱を持った人が立っていました。何とか、これまでのいきさつを伝えたかったけれど、思いと言葉は理解不能。もう大丈夫、OK。ということで終了となりました。あーっ。英語が話せたら……。本当に悔しかった事件でした。

帰り道7時間の飛行機は、映画にしようかな？それとも寝ようかな？それともゲームでもしてみようかな？と、余裕がありました。気持ちに大きな進歩です。

羽田は夜。見慣れた景色に安心したと同時に一緒に過ごした仲間とお別れ。寂しい感じがありました。お世話になった皆さん、有り難うございました。

そして私は迎えにしてくれた家族のもとへ……。

最後に、今回の研修で私が学んだことは、視野を広げること。そして、いろいろなことを知ることは決して無駄ではないこと。早速英語教室を探し始めています。ヘルプミー事件があったからこそだと思えます。もっともっといろんな人としゃべりたくなりました。英語も聞きとれたら楽しい、そう思うようになりました。

松が丘保育園の仲間にも感謝の気持ちでいっぱいです。運動会間近、きっと大変だった

と思います。当日の成功があったのは、子供達もがんばったけれど、松が丘保育園のチームワークがあったからこそだと思います。本当に有り難うございました。

